

環境活動レポート

2017 年度

レポート対象期間：2017 年 4 月～2018 年 3 月

2018 年 4 月 23 日 発行



エーソル株式会社

代表取締役 川寄 精一

1. 環境方針

環境基本理念

当社は地球環境に関する責任を厳粛に受け止め、企業活動と環境との調和を図り、環境汚染の防止、資源の有効利用に 継続的に取組、より良い社会の実現に努める。

環境方針

- 1 事業活動及び当社の製品が与える環境負荷と取り組みの成果を的確に把握し、当社の事業活動にふさわしい以下の環境活動を実施します。
 - ①消費エネルギーの削減
 - ②廃棄物の減量と再利用
 - ③グリーン購入の推進
 - ④節水に努める
- 2 環境目標を設定し、適切性維持のため、毎年見直しを行い、環境経営システムを継続的に改善するとともに、自主的、積極的に環境への取り組みを行い、継続的な環境負荷の削減に努めます。
- 3 環境に関する法令や条例、その他規制を受ける事項を順守します。
- 4 全従業員が環境方針を理解し、自らの役割を十分に認識し、本方針に沿って活動が行われるよう環境教育を進めます。

2013年4月1日 制定
エーソル株式会社
代表取締役 川寄 精一

2. 事業の概要

(1) 事業社名

エーソル株式会社

代表取締役 川崎 精一

(2) 所在地

◆本社

〒105-0013 東京都港区芝公園 1-3-1 留園ビル 9 階

◆鷺沼営業所

〒216-0004

神奈川県川崎市宮前区鷺沼 3-1-8 順峰ビル 2 階

◆宮前平営業所

〒216-0007

神奈川県川崎市宮前区小台 2-6-2 ラポール宮前平 3 階

(3) 環境保全関係の担当者・連絡先

◆環境管理責任者 滝島 三紀枝

連絡先 TEL : 03-5733-6817 FAX : 03-5733-6818

E-mail : mikie@a-sol-jp.com

(4) 事業所の規模

活動規模	単位	2015 年 (基準年度)	2017 年
従業員	人	87	81
床面積	m ²	※591	※382
(内 鷺沼営業所)	m ²	58	58
(内 宮前平営業所)		58	58

(5) 事業内容

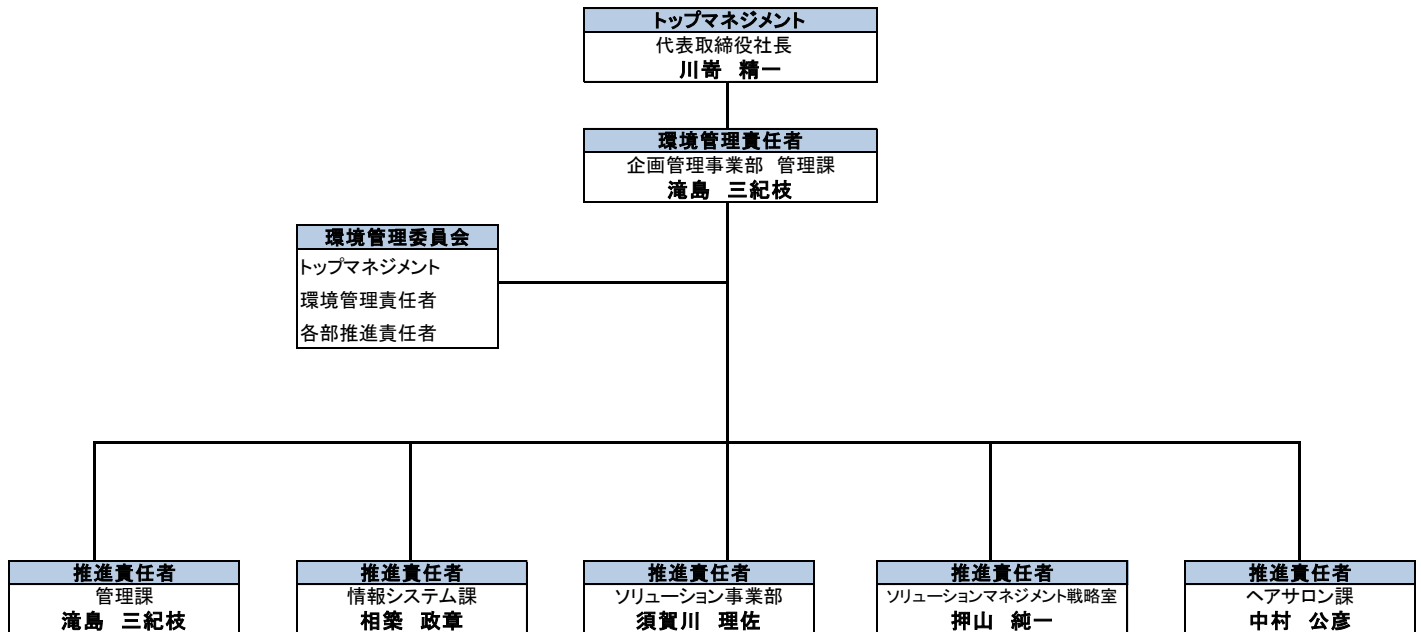
- IT コンサルティング、開発等、IT 業務全般
- IT 企業向けのアウトソーシングビジネス
- ヘアサロン事業

<http://www.a-sol-jp.com>

(6) 認証登録範囲

全社登録活動範囲

3. 環境活動実施体制



4. 環境への負荷の現状

【基準値】

- ・購入電力使用量の削減：2015 年度を基準値とし、毎年前年より 1%の削減を目指す
 - ・一般廃棄物の削減：2015 年度を基準値とし、毎年前年より 1%の削減を目指す
 - ・（ヘアサロン事業のみ）都市ガス使用量の削減：基準年度を 2015 年に設定し、毎年 1%ずつの削減をおこなう
- ※排出係数：電力 0.486 kg-CO₂/KWh（東京電力エナジーパートナー(株) 2016 年度実排出係数）で算出

環境負荷項目	事業所	基準値 (2016 年度)	2017 年度 (2017 年 4 月～2018 年 3 月)			評価
			目標	実績	対目標値達成度	
CO ₂ 排出量 Kg-Co ₂ /期間	本社	28306.00	28022.94	23376.96	16.6%	○
	鷺沼	10239.86	10137.46	7866.24	22%	○
	宮前平	1892.16	1873.23	2435.28	-30%	○
購入電力 KWh/期間	本社	56612.00	56045.80	48702.00	13%	○
	鷺沼	16596.00	16433.00	16388.00	0.3%	○
	宮前平	9257.00	9164.43	10213.00	-11.3%	×
一般廃棄物排出量 t/期間	本社	0.78	0.77	0.7	9%	○
	鷺沼	0.070	0.069	0.060	13%	○
	宮前平	0.14	0.13	0.14	-1%	×
都市ガス m ³	鷺沼	921.0	911.7	1428.0	-56%	×
	宮前平	864.0	855.3	1112.0	-30%	×

5. 環境への取組状況結果・評価

(環境保全の取組チェック結果を記入します)

		2017年4月～ 2018年3月
1	事業活動へのインプットに関する項目 小計	124 / 130
1	省エネルギー	62 / 68
2	省資源	52 / 52
3	水の効率的利用及び日常的な節水	10 / 10
4	化学物質使用量の抑制及び管理	0 / 0
2	事業活動からのアウトプットに関する項目 小計	64 / 66
1	温室効果ガスの排出抑制、大気汚染等の防止	0 / 0
2	廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理	60 / 62
3	排水処理	4 / 4
4	その他生活環境に係る保全の取組等	0 / 0
3	製品及びサービスに関する項目 小計	18 / 18
1	グリーン購入(環境に配慮した物品等の購入、使用等)	12 / 12
2	製品及びサービスにおける環境配慮	6 / 6
4	その他 小計	22 / 22
1	生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組	0 / 0
2	環境コミュニケーション及び社会貢献	22 / 22
3	施主・事業主における建築物の増改築、解体等にあたっての環境配慮	0 / 0
合計		228 / 236

【評価】

- ヘアサロン事業の電力使用量と廃棄物排出量が目標に対して未達という結果となった。
顧客増加に伴うものと推察されるが、今後も顧客へのサービスを落とさず維持する為に、目標値算出の為の対象を再度検討する必要がある
- 2018年度から新ガイドラインに沿った活動を実施する為、環境への取り組みと企業経営が密接に関連した内容を検討し実施する必要がある。

6. 環境保全に向けた具体的な取り組み結果 (2017年度)

<本社>

○=取り組む、×=取り組み前

取組内容	施策	項番	推進責任者	年間活動計画			
				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
1. 購入電力使用量の削減	エアコン設定温度を夏季26～28℃、冬季22～24℃とする	1-1	滝島	○	○	○	○
	省電力商品の優先購入	1-2	滝島	○	○	○	○
	人が居ないスペースの消灯を徹底する	1-3	滝島	○	○	○	○
	不要な電気の消灯を徹底する	1-4	滝島	○	○	○	○
	不要なOA機器の電源OFFを徹底する	1-5	相築	○	○	○	○
	サーバー利用台数の削減	1-6	相築	○	○	○	○
	【PC設定】 ・ディスプレイの照度を下げる ・無操作状態5分で自動ディスプレイOFF ・無操作状態10分で自動HDD電源OFF ・無操作状態15分で自動休止 ・離席時は手動休止	1-7	相築	○	○	○	○
2. 廃棄物排出量を削減する	資源ごみ、OA機器のリサイクルを徹底する	2-1	滝島	○	○	○	○
	機密文書回収BOXの利用を推進して、紙のリサイクルを徹底する	2-2	滝島	○	○	○	○
	ペーパーレス化の推進	2-3	滝島	○	○	○	○
	受信FAXの出力設定をデータ化する	2-4	滝島	○	○	○	○
	プリンター設定をモノクロ・両面・2up印刷	2-5	滝島	○	○	○	○
3. グリーン購入比率の拡大	事務用品のグリーン商品優先購入	3-1	滝島	○	○	○	○
4. 節水に努める	水使用量を把握し、節水を呼び掛ける	4-1	滝島	○	○	○	○
5. システム提案時に環境を意識 (省資源、省エネルギー)	お客様に省電力商品（サーバ、PC）を使用した 環境負荷の低減に結びつくシステム、環境に配慮した システム構築の提案を積極的に行う	5-1	相築	○	○	○	○
6. 社会活動に参加する	港区主催のアドプト活動（環境美化）に積極的に参加する	6-1	須賀川	○	○	○	○

<ヘアサロン2店舗>

○=取り組む、×=取り組み前

取組内容	施策	項番	推進責任者	年間活動計画			
				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
1. エネルギー投入量の削減	エアコン設定温度を必要以上に上げたり、下げたりしない	1-1	中村	○	○	○	○
	省電力商品の優先購入	1-2	中村	○	○	○	○
	LED蛍光灯導入の推進	1-3	中村	○	○	○	○
	人がいないスペースの消灯を徹底する	1-4	中村	○	○	○	○
	使用していないOA機器の電源OFFを徹底する	1-5	中村	○	○	○	○
2. 廃棄物排出量を削減する	排出量を計測する	2-1	中村	○	○	○	○
	消耗品の空き容器等の分別を徹底する	2-2	中村	○	○	○	○
	ペーパーレス化の推進（予約表等は端末で管理）	2-3	中村	○	○	○	○
	カラー剤等を必要以上に発注して、空き容器ゴミを増やさない	2-4	中村	○	○	○	○
3. グリーン購入比率の拡大	グリーン商品の優先購入	3-1	中村	○	○	○	○
4. 節水に努める	節水を意識する	4-1	中村	○	○	○	○
5. カラー剤等の使用量を調節する	必要以上に薬液を使用しない（環境汚染を防止する）	5-1	中村	○	○	○	○

7. 環境負荷低減のための中長期（2018年度～2020年度）目標

<本社>

- ・ 購入電力使用量の削減：基準年度を2016年に設定し、毎年1%ずつの削減をおこなう
- ・ 一般廃棄物、紙類等の分別・資源化：2016年に設定し、毎年1%ずつの削減をおこなう
- ・ 節水に努める
- ・ お客様へのシステム提案時に環境にも意識した（省資源、省エネルギー）提案を行う
- ・ 地域の環境美化活動に積極的に参加する

<ヘアサロン事業>（※3店舗）

- ・ 購入電力使用量の削減：基準年度を2016年に設定し、毎年1%ずつの削減をおこなう
※東陽町営業所については2018年度を数値収集年度とする
- ・ 一般廃棄物、紙類等の分別・資源化：準年度を2016年に設定し、毎年1%ずつの削減をおこなう
※東陽町営業所については2018年度を数値収集年度とする
- ・ カラー剤、パーマ液の購入量を把握：必要以上に薬液を使用しない（多めに使用する事によって余った薬液を下水に流してしまう事を防ぐ）（空き容器の排出を削減する）
- ・ 節水に努める：数値の収集をおこなう

8. 環境保全に向けた具体的な取組(計画)

<本社>

① 購入電力使用量の削減

【年度目標】

基準年度を2016年に設定し、毎年1%ずつの削減をおこなう

【施策】

エアコン設定温度を、夏季26℃～28℃／冬季20℃～22℃とする

人が居ないスペースのエアコン停止を徹底する

人が居ないスペースの消灯を徹底する

使用していないOA機器の電源OFFを徹底する

省電力商品の優先購入

サーバー利用台数の削減

温度・湿度・照度の計測機器を導入して、各部屋の状況を把握する

[PC設定] ディスプレイの輝度を下げる

[PC設定] 無操作状態5分で自動ディスプレイOFF

[PC設定] 無操作状態10分で自動HDD電源OFF

[PC設定] 無操作状態15分で自動休止

[PC設定] 離席時は手動休止

② 廃棄物排出量の削減

【年度目標】

基準年度を 2016 年に設定し、毎年 1% ずつの削減をおこなう

【施 策】

資源ごみ・OA 機器のリサイクルを徹底する
機密文書回収 BOX の利用を推進して、紙のリサイクルを徹底する
ペーパーレス化の推進

③ 節水に努める

【施 策】

ポスター掲示等による節水の呼びかけ

④ システム提案時に環境にも意識した（省資源、省エネルギー）提案

【施 策】

お客様に省電力商品（サーバ、PC）を使用した環境負荷の低減に結びつくシステム、
環境に配慮したシステム構築の提案を積極的に行う

⑤ 環境に関する社外活動を行い社員の意識向上を図る

【施 策】

港区のアドプト活動へ積極的に参加する（環境美化活動）

<ヘアサロン事業>

① 購入電力使用量の削減

【年度目標】

基準年度を 2016 年に設定し、毎年 1% ずつの削減をおこなう
※東陽町営業所については 2018 年度を数値収集年度とする

【施 策】

エアコン設定温度を必要以上に上げたり、下げたりしない
省電力商品の優先購入
LED 蛍光灯導入の推進
人がいないスペースの消灯を徹底する
使用していない OA 機器の電源 OFF を徹底する

② 廃棄物排出量の削減

【年度目標】

基準年度を 2016 年に設定し、毎年 1% ずつの削減をおこなう
※東陽町営業所については 2018 年度を数値収集年度とする

【施 策】

排出量を計測する
消耗品の空き容器等の分別を徹底する
ペーパーレス化の推進（予約表等は端末で管理）
カラー剤等を必要以上に発注して、空き容器ゴミを増やさない

③ カラー剤、パーマ液の購入量を把握

【施 策】

必要以上に薬液を使用しない（多めに使用する事によって余った薬液を下水に流してしまう事を防ぐ→環境汚染の防止）（空き容器の排出を削減する）

④ 節水に努める

【年度目標】

基準年度を 2016 年に設定し、毎年 1% ずつの削減をおこなう
※東陽町営業所については 2018 年度を数値収集年度とする

【施 策】

シャワーを出しっぱなしにせずに小まめに開閉する様に徹底する

9. 環境関連法規一覧

当社に適用される法規は以下の通りで、これらの環境関連法規への違反は1件もありませんでした。
なお、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間ありません。

	法規制名	チェック方法	評価
1	温対法	管理表の確認	○
2	グリーン購入法	グリーン商品で有るか確認したのち、購入する様に徹底する。	○
3	省エネ法	管理表の確認	○
4	消防法	消火器の設置・消火栓・避難経路の位置確認	○
5	廃掃法	ビル管理会社との廃棄方法の契約確認、 管理表の確認、マニフェストの確認	○
6	リサイクル法	廃棄する PC(OA 機器)等は引取業者のルールに従い リサイクルする	○

10. 全体評価と見直しの結果

エコアクションの活動を始めて5年以上が経過し、従業員には環境活動について浸透してきた様に感じる。

今後どういった活動を実施する事が有効であるか改めて精査する必要がある。

その中でも環境コミュニケーション及び社会貢献の一環として実施している「地域の環境美化」等の社外活動に、より多くの従業員が積極的に参加する様に、引き続き運営メンバーからアイデアを出し活動の拡大を目指して行ってほしい。

また、ヘアサロン店舗については電気使用量、廃棄物排出の削減が目標を未達に終わったが、顧客増加、従業員増加によるものと推察されるので、顧客満足を維持しつつ実施出来る施策や目標値を再検討する必要がある。更には今後店舗数が増える事を鑑み、より一層の従業員や新入社員への教育が重要となってくる。

【結果評価日 2018年4月18日 代表取締役 川崎 精一】

以上